

大学院 式辞

本日は、大学院課程修了、おめでとうございます。

本日の学部卒業式に際し、わたくしはミシェル・ド・モンテーニユの言葉を引用し、社会へ旅立つ卒業生への餞の言葉とさせていただきました。そこで、今日大学院課程を修了される皆さんにも、この十六世紀ルネサンス期のフランスを代表する哲学者の言葉を以て、お祝いの言葉とさせていただきますと思います。彼は名著『エッセー』の中で、次のようなことを言っています。少し長いのですが、これからの皆さんにぜひ記憶に留めておいてほしい言葉ですので、あえて引用します。

私はある人々が、他人の武器で指の先さえ見えないほどに身を固め、あっちこっちから寄せ集めた古人の独創のもとに、自分の意図を押しすすめるのを見ましたが、(これは普通の問題を取り扱う場合には学者にとって容易なことですが)、もしも彼らがそれを隠して自分のものであるかのように見せるのであれば、それは第一に不正であり、卑怯であります。なぜなら、自分の価値で自分

を現わすことができないので、他人のもので自分を偉く見せようとするからです。第二にそれはきわめて愚かなことでもあります。なぜなら、彼らのごまかしによって無知な俗衆から称讃されることで満足しても、他人からの借りものの象眼などを鼻であしらう人たちに対しては信用を失うからです。本当はこういう人たちの称讃だけが値打ちがあるのです。モンテーニュ著、原二郎訳『エセー』岩波文庫より)

ここでは研究者としてのものとも大切なことが示唆されています。このことを忘れずに、皆さんも頑張ってください。そして皆さんも、他人からの借りものの象眼などを鼻であしらう人たちの称讃」を得るような研究をなさってください。

皆さんのこれからのご健勝とご活躍をお祈りして、簡単ですが、わたくしの式辞とさせていただきます。

平成二十年三月二十二日

武蔵大学学長 平林 和幸